

越前國
淺水橋

呼其名矣

〔書言字考節用集乾二坤〕淺水橋越前丹

〔和爾雅地一下〕越前國 黒戸濱橋

〔名所方角抄越前〕淺水橋 黒戸の橋 細々不用之名所なり、世俗にあさうづといふ所か、略 中

たれぞこのね覺て聞ばあさむづの黒戸の橋をふみとどろかす

〔國花萬葉記越前十二〕淺水の橋 黒戸の橋 世俗にあさうづと云所也、此所より福井へ二里有、

景物 朝水のくろどのほし共 爰をよめり、

〔和漢三才圖會越前七〕當國神社佛閣名所略 中

麻生津橋 又名 黒戸橋、在府中、福井之間、此處有江、名玉江、攝州有

〔遊囊贖記 二十三〕朝津橋ハ一名ヲ黒戸ノ橋トイフ、川上ハ今立ノ片上郷ヨリ出テ、下ハ江端川ニ

入ル、

〔催馬樂〕律 淺水 一段、拍子二十一、

あさんづのはしのと、ろと、ろと、ふりしあめの、ふりにしわれを、たれぞこのなかびとたて、
みもとのかたち、せうをこし、とぶらひにくるや、さまやのきんだちや、

〔催馬樂入文 中〕あさんづのはし抄、梁塵抄曰、あさむづのはしは、飛驒國と云、或は越前ともい

へり、考 書入云、標に淺水とかければ、本淺水の橋なりけるを、あさんづの橋とうたひし

より、音便のを慥にむとすみて、あさむづのはしとはなりしなるべし、今按に此橋の名は、も

と淺生津なりけるを、さては此曲の此句の節の間に餘りける故に、音便にあさんづとはうた

ひし也、標に淺水と書たるは、かの淺生津を淺生水とも書し、生を省きたる也、すべて諸國の名

郡名郷名を二字にせよと云和銅の詔より後々は、此類常に多かり、さて此橋は越前の鯖江に